

# 編 集 後 記

## ■『厳しい「戌年」の始まり』

新年早々、例年になく寒さが厳しい日が続く。日本各地で大雪に見舞われ、都心では10年ぶりに9センチ以上の積雪が観測された。天候ばかりでなく、経済面でもライブドアによる証券取引法違反事件が波紋を広げ、市場機能が混乱するなど、ホリエモン流「錬金術」に世間の厳しい目が向けられている。

厳しいといえば、我々公務員も例外ではない。過剰な福利厚生問題、市民感覚、時代感覚からずれた手当、その他過剰な勤務条件が今世間の厳しい批判にさらされている。一方で能力主義の導入など、50年ぶりに給与制度が大きく変わろうとしている。

分権改革、三位一体改革が声高々に叫ばれるなど、今、地方自治は大きな転換期を迎えているが、実効ある改革を進めていくためには、能力・実績主義による昇給や配置転換の徹底は避けて通れない課題である。私個人にとっても厳しい内容ではあるが、むしろこれまでの制度に安住してきたことを自戒し、改革に向けての気持ちを新たにこの1年を乗り越えたい。(H・S)

## ■「広報紙も共同で」

先日、時事通信の「官庁速報」にこんなタイトルが載っていました。どういうことやらかと見てみると、タイトルどおり、広報紙を来年度から3町村共同で発行しようと考えているとのこと。この他にも職員研修や税の滞納整理なども共同で行うそうです。

後者のように、各市町村どこでも行っている事業や似通っている事業を共同で行うのはすぐ浮かぶ選択肢ですが、それぞれの市町村特有の情報が載っている広報紙を一元化するというのは、「斬新な発想やなあ」と驚くと

ともに「大丈夫かな」とも思いました。

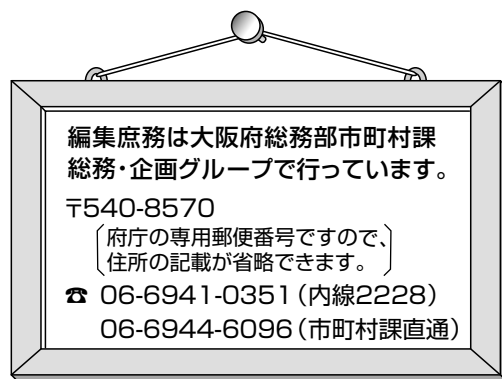
ただ、よくよく考えてみれば、共同で行う事務を増やしていけば、広報紙に載せる記事も共通の部分が増えるでしょうし、さらに、住民が他市町村の施設や事業の情報を得てこれを利用するといったメリットも考えられ、「出来ないことではなく、検討の価値ありでは」と思いました。(Y・N)

## ■「今年の冬は暖冬です。」との予想が大きく外れ、一部の地域では、生活に支障が出るほど厳しい冬となっています。

非常に厳しい冬ではありますが、冬には冬の楽しみがあります。学生時代から毎年2～3回程度、北海道や長野県などにスキーに行っていたのですが、昨シーズンは、6ヶ月になる息子がいるため、一度も行くことができませんでした。今シーズンこそは息子を連れて、“白銀の世界へ”と思っていたのですが、妻の「子供が風邪をひく」との一言で夢と消えそうです…。

“風邪は万病の元”と言いますので、体調にはくれぐれもお気をつけください。

(T・T)



## サマージャンボ宝くじ

## オータムジャンボ宝くじ

～市町村のまちづくりに役立っています～

月刊「自治大阪」の発行は、サマージャンボ宝くじの収益金を活用しています。

